



嘉興市の新工場で作る鋼管を上海工場で燃料配管に加工する(中国の上海工場)

# 白井国際産業

# ステンレス鋼管 中国生産

## 直噴エンジン用 30億円投じ工場

自動車部品メーカーの白井国際産業(清水町、星野俊彦社長)は2016年9月から中国で直噴エンジン用ステンレス鋼管を生産する。上海市に隣接する浙江省嘉興市に約30億円を投じて年間生産能力600トの工場を新設する。燃焼効率のいい直噴エンジンの搭載車は今後、世界的に増加が見込まれており、鋼管生産の内製化で供給体制を強化し、一層のコスト削減を目指す。

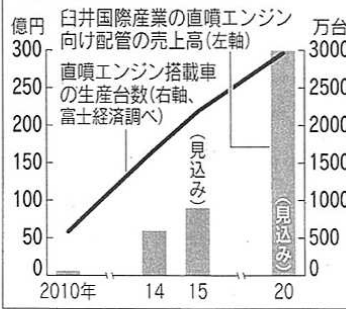
## 燃料電池車向け供給も

嘉興市に新設する工場は延べ床面積は約1万4

## 地域とアジア

300平方メートルの平屋にステンレス鋼管を切断、加工する設備を整える。約60人の従業員を新たに雇用し、エンジン用部品を生産する上海工場に供給する。今後は燃料電池車(FCV)の普及を見据えて、FCV向け水素配管素材の供給拠点として

市場の拡大に合わせて売り上げの増加を見込む



も活用する計画だ。中国はじめ新興国を中心に自動車の環境規制を強化する動きが広がる中、高圧をかけた細かい霧状にするほど燃焼効率が高くなるガソリンの特性を生かした直噴エンジンは需要を伸ばしている。富士経済(東京・中央)によると、同エンジンを搭載した世界の自動車の生産台数は25年には3662万台と11年の約6倍に伸びる見込みだ。こうした状況を踏まえ、同社では直噴エンジン向けの燃料配管の売上高を15年12月期には前期比5割増の90億円に伸ばし、20年12月期には中国の新工場の寄与もあり300億円を目指す。海外拠点には日本から部品原料のステンレス鋼管を供

給しているが、中国では新工場稼働を機に現地で調達し、輸送費も含めたコスト削減に取り組み。中国新工場では直噴エンジン向けに加え、究極のエコカーとして今後の普及が見込まれるFCV向けの部品供給も視野に入れている。御殿場市にある工場で生産しているステンレス製のFCV向け水素配管を海外に供給する場合は、中国新工場内に12工場を持つ。海外では米国、タイに続き04年に中国・上海に進出し、15年3月にはメキシコで新工場が稼働し、今回の中国での新工場建設は、日系や米フォード・モーターなど現地企業に導入した自動車各社の需要増に応じたもので、静岡県内はじめて国内の生産体制に影響はない。15年12月期の連結売上高はメキシコ新工場の寄与もあり前期比5%増の960億円を見込む。直噴エンジン向け部品などの海外生産拡大に伴い18年12月期には1300億円の売上高を目指す。